

法人会全国大会鹿兒島大会

本県初開催 1700人が集う

第40回法人会全国大会鹿兒島大会が3日、鹿兒島市の城山ホテルで開かれた。全国法人会総連合(小林栄三会長)が主催。主幹は県法人会連合会(今別府英樹会長)が務め、本県初開催の大規模イベントに関係者約1700人が集った。全国の経営者が理想を語り合い、税のオピニオンリーダーとして地域振興や社会の発展に貢献すると誓った。



全国的経営者が参加。企業力を地域で発揮する鹿兒島市。城山ホテルで開かれた。

大きな喜び。豊かな自然や文化が溢れに溢れ、と挨拶。塩田康一知事と下鶴隆夫市長のほか、奥達雄国税庁官も来賓祝辞を寄せた。

への報告のほか、青年部会による活動報告も実施。佐世保と北那覇の若きリーダーが次代への取り組みを伝えた。記念講演では、本県出身でANAホールディングス取締役会長の片野坂真哉氏が、コロナ禍で大打撃を受けた航空業界の危機下での経営戦略を語った。火縄銃の試射や県内特産品を多数そろえた物産展など鹿兒島らしさがあふれたイベントに小林会長(伊藤中商事)は「準備に尽力した関係者に感謝したい。法人会から日本を元気に」を胸にこれからも社会発展に努めたいと力を込めた。



全国的経営者が参加。企業力を地域で発揮する鹿兒島市。城山ホテルで開かれた。

「本年度会員増強・県連」最優秀賞 鹿兒島【同・単位会】特別指宿【会員純増維持・単位会】串木野日置奄美大島 曾於 北薩

資質向上を図る

島市の国分ハウジングホールであった「写真」。同協会会長・伊佐支部(長谷部昭三支部長)が24人が受講し、基礎知識と実務の向上を図った。講習会では、県産産物・リサイクル対策課産業廃棄物係の瀬戸山旺子主事と中村友拓衛生技師が産業廃棄物の基礎知識や実務等を解説。このほか、産業廃棄物処理に係る各種講習会や環境省九州地方説明会や環境省九州地方環境事務所資源循環課の和家秀格課長による「環境省における資源循環に向けた取り組み」を聞いた。

志布志パーチャルター「港や建設の面白さ体験」九州地方整備局志布志港湾事務所(渡邊佑輔所長)は9月28日、志布志市の同事務所で行われた。志布志パーチャルター(「共催・志布志市教育委員会、協力・森建設)を開催した。同ツアーは、パソコンやタブレットを使って気軽に昔と今の志布志を知ってもらうために企画されたもので、約30人が参加。同日は、志布志のドローン映像や昔の写真の町並み、普段見られない会話が聞かれた。

豊明建設(林正英社長)とTASかのや(落合ひとみ代表)は9月28日、鹿兒島の豊明建設川西エンジニアリングセンターで、若手社員を対象にマネーセミナーを開催し「写真」。お金に関する知識や貯蓄力を支える考え方などを学んだ。同日は、社員ら12人が参加。FPAサポートリファレンスの関野信一ファイナンシャルプランナーを講師に迎

え、給料明細の見方や、貯蓄力を支える考え方、無用な金銭トラブルを回避するポイントなどについて講義を受けた。林社長は「人生100年と言われる時代。生涯にわたるお金のことで失敗しないように正しい知識を学んでほしい」と思い企画した。自身のライフプランを考え、有意義な人生を送ってほしい」と語った。

無災害達成へ一丸

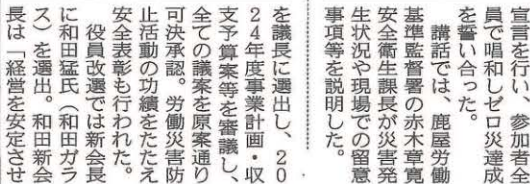
金力会 安全大会 総会



安全作業の推進に万全の体制を呼び掛けた大会=志布志市の大黒リゾートホテル

リポートホテルで安全大会と総会を開いた。大会と協賛会員ら約110人が参加。「危険に気付くあなたの目そして掴み取る危険の芽みんで楽しく職場の安全」のスローガンの下、無事故無災害の達成に向け一丸となつて取り組んでいくことを誓い合った。

大会では、内山社長が「今年度も残り半年。無事故無災害の継続を目標として、建設三大災害に加え工具取り扱い安全作業確認の徹底を最重要取り組みとして各現場で展開していき



安全作業の推進に万全の体制を呼び掛けた大会=志布志市の大黒リゾートホテル

たい。協力会全社の無事故無災害の達成に向け、引き続き現場での安全作業の推進に万全の体制で臨んでもらいたい」と呼び掛けた。次いで、同社総務部の梅木義和さんが安全事項等を説明した。

を議長に選出し、2024年度事業計画・収支予算案等を審議し、全ての議案を原案通り可決承認。労働災害防止活動の功績をたたえ安全表彰も行われた。

役員改選では新会長に和田猛氏(和田ガラス)を選出。和田新会長は「経営を安定させ

新役員等は次の通り。【新役員】会長 和田猛氏(和田ガラス) 副会長 宮内宏智(川畑建設) 監事 吉松英敏(吉松工業) 内山正吉(宮崎水道) 【受賞者】建築部 有村隆太(協栄建設) アイワ工業 瀬戸口鉄筋工業 原木家具センター

植村組が寄贈

薩摩川内市に防災備蓄品



安全作業の推進に万全の体制を呼び掛けた大会=志布志市の大黒リゾートホテル

植村組(植村一社長)は、薩摩川内市に防災備蓄品を寄贈した。2日、同市役所で感謝状贈呈式があった。写真。同市では各支所等の保管状況を整理した上で不足している備蓄品を配布していく。

寄贈したのは、カセットガス発電機3台、カセットボンベ108本、真空パックのまき毛布80枚、そのまき飯セット120食、卵スープ150食。同市と避難所に関する協定を結んでいることから贈った。

目録が手渡されたあと、田中良二市長が感謝状を贈った。植村社長は「災害はいつ、どこで起こるか

分らない。本来何もないのが一番であるが、万が一発生した場合は、力となるよう努力していきたい」と話した。田中市長は「今年も変わらぬ災害が発生し、避難所を4回開設している。東郷町の一部集落が孤立し水や食料を手渡したこともある。備蓄品を有効に活用したい」と感謝の言葉を寄せた。